

都市再生整備計画 事後評価シート
成相・新田地区

平成23年3月

長野県安曇野市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長野県		市町村名	安曇野市		地区名	成相・新田地区			面積	56ha		
交付期間	平成18年～平成22年		事後評価実施時期	平成22年		交付対象事業費	1,372百万円	国費率	0.33				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	道路(街路神明通線・中学通線・中央通線)、公園(新田東原公園)、地域生活基盤施設(成相上町広場・公共施設案内板)、高次都市施設(豊科交流学習センター)									
			提案事業	地域創造支援(図書館建設事業)、事業活用調査(交付金事業調査)、まちづくり活動推進(豊科商店街活性化事業)									
			事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	当初計画から削除した事業		基幹事業	公園(新田東原公園)			安曇野赤十字病院の現地改築に伴い公園整備予定地を、病院職員の仮駐車場に利用することとなり期間内に整備を実施することが出来ないため。			市街地の公園・広場に関する満足度の指標に関係するが、数値目標は据え置く			
			提案事業	まちづくり活動推進(豊科商店街活性化事業)			「まちづくり交付金の適正な活用について」の通知より、交付期間の途中で、計画から削除			全体の指標に関係するが、数値目標は据え置く			
			提案事業	事業活用調査(交付金事業調査)			担当部局で実施可能で、業務委託を行わなかったため			全体の指標に関係するが、数値目標は据え置く			
	新たに追加した事業		基幹事業	なし			—			—			
			提案事業	なし			—			—			
	交付期間の変更		当初	平成18年～平成22年		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			—				
変更			—										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	神明通線の歩行者数	人/12h	150	H14	180	H22	●	289	○	あり	歩道の設置により、安全な歩行空間の確保ができ、歩行者の往来が増えた。	平成23年8月
	指標2	地区文化施設の年間利用者数	人/年	27,000	H16	32,400	H22	●	10,050	×	あり	豊科交流学習センターの完成により、入館者の下げ止まりを期待。	平成24年3月
	指標3	市街地の公園・広場に関する満足度	%	20	H17	50	H22	●	56	○	あり	買い物や散歩の休憩場所、商店街主催の催し物等に利用され一定の満足度が得られた。	
	指標4							●			あり		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	豊科学習交流センターに併設される図書館利用者数	人/年	14,771	H17			●	22,500			地域住民の活動の場の一つである図書館の利用者数が増加すると判断。	平成24年3月
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況	・同市にまちづくり交付金事業で実施した同程度の交流学習センターがあり、併設する図書館は蔵書数、機能面等大幅に改善され、前年の入館者数をはるかに超えている。そのため、豊科交流学習センターにも同様の効果が期待できると考える。												
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング		—				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—		
	住民参加プロセス		安曇野市交流学習センター施設検討委員会 平成18年3月から平成18年11月 計17回 現状の確認から交流センター、図書館、複合施設のあり方を提言				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後の交流学習センターの運営についても、必要に応じて意見を聞き、よりよい施設運営を行う。		
	持続的なまちづくり体制の構築		—				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—		

様式2-2 地区の概要

成相・新田地区(長野県安曇野市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標: 豊科地域の文化ゾーンとしての交通の利便性を高めるとともに、住民の交流拠点の創設を図る。 目標1 市街地内の道路整備による安全で良好な都市空間の形成と交流機能性の向上。 目標2 文化施設ゾーンに地域交流センターを併設することにより地域住民のコミュニティー活動を支援する。 目標3 市街地に潤いや、憩いの場である公園・広場を配置することにより、都市化の中で不足しがちな、人々の集いの場を再生する。	神明通線の歩行者数	単位: 人/12h	150 H14	180 H22	289 H22
	地区内文化施設の年間利用者数	単位: 人/年	27,000 H16	32,400 H22	10,050 H22
	市街地の公園・広場に関する満足度	単位: %	20 H17	50 H22	56 H22
	豊科学習交流センターに併設される図書館利用者数	単位: 人/年	14,771 H17	H	22,500 H22
		単位:	H	H	H

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 歩道の設置により、小中学校の通学路として安全な歩行空間の確保ができ、歩行者数が増え、完成間近の豊科交流学习センターへのアクセス支援道路となった。 成相上町広場が成相区の身近な広場として整備され、買い物等で出歩く際の休憩場所としてまた、地域のイベント時の広場として活用された。 市民交流センターが図書館と一体に整備した複合施設となったことにより、地域の拠点として活動できる場が確保され、さまざまな年代の人が発表しあひ觀賞しあうことで交流が生まれる場となる。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 合併して5年が経過し、安曇野市のあるべきまちの方向性が示されつつあり、観光、工業、商業、農業、都市基盤、公共サービス等、市に何が必要かを再検討する必要がある。 市庁舎の建設予定地が豊科学習交流センターに周辺に決定され、市の顔となるエリアの整備が必要となってくる。 地域の活動の一つの拠点として、豊科学習交流センターができたが、市民が参加し活発に利用されるよう、地域に根差した事業の企画、運営が必要である。